

議 事 録

件 名	防災対策委員会 第26回会議
日 時	令和4年5月31日(火) 13:55~15:40
場 所	久留米市社会福祉協議会 2階大会議室
出 席 者	<p>委員：古賀委員長（久留米市まちづくり連絡協議会） 矢野副委員長（福岡県防災士ネットワーク久留米支部） 後藤委員（久留米警察署） 高木委員（久留米市消防団） 中村委員（久留米広域消防本部） 藤原委員（健康福祉部地域福祉課）代理：溝江補佐 平井委員（総務部防災対策課）</p> <p style="text-align: right;">計7名</p> <p>事務局 防災対策課：佐野主幹、中山補佐、井上 地域福祉課：中河原主査 安全安心推進課：柳主幹</p>
欠 席 者	<p>諸永委員（久留米市民生委員児童委員協議会） 漆原委員（久留米市社会福祉協議会）</p>
傍 聴 者	なし
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 今後の主なスケジュールについて (2) セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について 3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 2021(令和3)年度実績及び2022(令和4)年度方針(案)について (2) 事前指導のプレゼン資料(案)について (3) 広報啓発について 4. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 合同対策委員会におけるワークシートに関する意見交換 5. 閉 会

議 事 録

質 疑	<p>2. 報告事項</p> <p>(2) セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について</p>
委 員 長	<p>問 33 - 2 の自主防災組織の活動で令和 3 年度の数が上がっていないのは、コロナの影響が大きいのかもしれない。校区としても、活動したいけどできないという状況だった。今年はウィズコロナで防災訓練をしたいと考えている。</p>
副 委 員 長	<p>問 33 - 2 で自主防災組織の活動を知らない人がこんなにも多い。自主防災活動の校区差が大きいのか？</p>
事 務 局	<p>自主防災組織の活動取り組みの差はあると思う。 また、久留米市内全体での調査の為、このような結果になっているのではないかと。</p>
委 員 ①	<p>セーフコミュニティ実態調査の問 26 と、市民意識調査の問 33-1 はどちらも避難に関する質問をしているが、市民意識調査では避難所への避難が前提になっているので、「在宅避難」や「分散避難」なども入れて質問した方が良いと思う。</p>
事 務 局	<p>検討したい。</p>
	<p>3. 協議事項</p> <p>(1) 2021(令和 3)年度実績及び 2022(令和 4)年度方針(案)について</p>
委 員 長	<p>防災リーダー研修会は、平日コースと休日コースと設けているが、なかなか若い人が参加されていない状況だ。校区としては、特に女性に多く参加してもらいたいと思っている。避難所に避難してくる人は、高齢の方がたくさんいるので、女性の方の気配りが必要になってくると思う。 防災リーダー研修会に女性の方が参加しやすい環境を整えてほしい。</p>
副 委 員 長	<p>防災士の研修は何日間あるのか？ 平日？休日？</p>
事 務 局	<p>例年、1 月下旬頃の土日の 2 日間で開催している。</p>
副 委 員 長	<p>御井校区は久留米大学のボランティアサークルが訓練に参加してくれるが、学生がいない校区は大変だと思う。</p>
委 員 長	<p>最近、大学のゼミと校区の交流があっている。若い人達に私達の取り組みを知ってもらいたいという気持ちがあるので、ぜひ積極的に参加してもらいたい。</p>

委員長	<p>また、防災士・防災リーダーは高齢の方も多く、これだけの数を養成していても実際に動くことが出来る人はここまでの人数はいないと思う。</p>
委員 ①	<p>若い時から防災を意識して参加してもらうのは非常に難しいと思うが、先程の実態調査や市民意識調査の結果を見ると、災害に対して不安な人は多いけど自主防災活動など自ら何か行動している人は少ないようだ。</p> <p>漠然とした不安を持っているという事は、防災意識には繋げていきやすいのではないか。先程の実績の中で紹介のあった南校区防災フェアの様に、子どもと一緒に参加することができるの良いきっかけになるのではないか。そこから更に、防災士・防災リーダーに参加してもらおうといった活動に繋がると良いなと考えている。</p> <p>(2) 事前指導のプレゼン資料(案)について</p>
副委員長	<p>防災士・防災リーダーになってどういう活動をしたら良いのか分からない人が多いと思うので、活動例などを示してもらえると分かりやすいと思う。</p>
委員長	<p>防災士・防災リーダーに繰り返し研修を実施してほしい。</p> <p>研修会の規模もあまり大きいものではなく、防災士や防災リーダーの役割の紹介や指示をしてほしいと思う。</p> <p>防災リーダーは自治会単位のリーダーという位置付けになっているが、もっと増えてくると自治会でも防災訓練が出来るのではないか。</p>
委員 ①	<p>防災士・防災リーダーの方には、スキルアップ研修会を開催しているが、なかなか校区に入っていけないのが現状であり、課題だと考えている。</p> <p>委員長や副委員長が言われたような、スキルアップ研修会の内容について具体的な行動に繋がるような研修の実施を頑張りたい。</p>
委員長	<p>プレゼン資料の4ページについて。防災対策委員会の構成メンバーの中に、校区活動に熱心な方や、若い時に防災関係の仕事についていた人などを入れる事はできないのか？</p>
事務局	<p>委員の増減に関しては可能だが、事前指導の後なのか、再々認証の後なのかタイミングについては相談したい。</p>
委員 ②	<p>5ページについて。「水・食料の備蓄は何もしていない人の割合はまだまだ多い」というのは、何もしていない3割の人に対してのことだと思うが、水の備蓄はこれまで半数の人が備蓄していなかったが、何らかの備蓄をした人は7割以上になっているので、残りの3割の人にもアピールしていきたいという様に見えるのか少し気になった。</p> <p>14ページの要支援者名簿について。この名簿は毎年更新なのか？</p>

事務局	毎年更新している。
委員 ②	令和3年3月は5,391人だが、何人中のこの人数なのか分かるか？
事務局	対象者は1万3千人。しかし、施設に入所されている方や、ご自宅の状況などもある為、その中で更に支援が必要な方の数というのは把握できかねている。
委員 ①	消防の方にはこの名簿のデータはっていないのか？
事務局	消防にはデータを渡ししており、通信指令システムのGISの中に、要支援者のマークが付くように対応してもらっている。
委員 ③	7ページについて。年代別で比較しているが変化が無いので、高齢者の数と要介護者の割合といった比較の方が良いのではないかと思う。
委員 ①	6ページについて。避難者の5,083人は台風10号の避難者なので、これだけ災害の事象が違っているので比較するのはどうかと思う。それから、「在宅避難」や「分散避難」といった言葉を最近使い始めたので、令和3年8月の876人では、「在宅避難」や「分散避難」をした人も多かったのではないかと思う。 「在宅避難」や「分散避難」を推奨したことで減ったという事も入れた方が良いのではないか。
事務局	令和3年8月の5,083人だけ突出しているので、丁寧に説明したい。
委員長	コミュニティセンターや小学校が避難所になっているが、環境が悪いことが多い。環境が悪いので避難をしないと人いるかもしれないので、環境の整備もしてほしい。
委員 ①	避難所は各校区1ヶ所開設している。基本的にはコミュニティセンターを避難所にしているが、浸水するところもある。そういった校区は小学校を避難所にしており、空調のある教室を避難場所にしてもらっている。 ただ、空調は付いているが避難所の環境となると、快適な環境ではないと思う。少しずつでも対策をしていきたいと考えているが、費用などもあるので直ぐには難しいのが現状だ。 また、今のところ浸水害といっても長くても2～3日の避難生活となっているので、少し辛抱していただくところがあるかと思う。長期の避難になると、国や県などと協定を結んでおり、支援物資が届くようになっているので、短期よりも快適に過ごしてもらおう環境を整備することができると考えている。